

平成30年度第1回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成30年 5 月 15 日（火）午後2時
場所：犬山市役所503会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 委員長職務代理者 高木浩行 委員 紀藤統一 委員 田中秀佳
委員 奥村康祐 委員 小倉志保 委員 堀 美鈴

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課

松田課長

井出課長補佐

渡邊統括主査

小枝主査

【教育部】

中村教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課

長瀬課長

神谷主幹兼指導室長

岩田指導主事

子ども未来課

矢野主幹

記録者 井出修平 小枝俊人

傍聴者 0名

◆次第

1 開 会

2 あいさつ

3 議題

(1) 今後の教育施策の取組について

(2) 平成30年度総合教育会議のスケジュールについて

4 自由討議

5 その他

6 閉 会

◆会議要旨

議題(1) 今後の教育施策の取組について

・事務局より下記について説明がされた。

全小中学校共通のテーマとして「読解力向上」を掲げ支援を講じていくこと

現在の犬山市における「幼保小の連携」と「言語に関する幼保のカリキュラムについて」

・市長より、「国語教育に対する市長の考え」が説明された。

【主な意見】

幼児教育においては、「豊かな感性と表現」を強く入れていただきたい。

「何のためにやるのか」を最初に明確にした方が良い。

「電子辞書を使う子どもと紙媒体の辞書を使う子どもとで理解力に差があるか」を現場の先生で共有し、対応を考えたい。

議題(2) 平成30年度総合教育会議のスケジュールについて

- ・平成30年度の犬山市総合教育会議は、5月15日、10月、1月下旬～2月下旬の計3回。他に緊急の場合には緊急会議を開催することを確認した。

自由討議

- ・不審者情報について

これまでの不審者情報を地図上に落とすと良いのではないか。

- ・教育条件について

(国語教育) 日本一の犬山を目指すにあたって、教育条件の整備について研究し、提示していきたい。

その他

- ・部活の見直しについて

部活動の見直しについては保護者の理解を得られるよう丁寧に対応する。保護者からきちんと理解されていることを把握する。

【主な意見】

保護者の理解を得られるよう、丁寧な対応が必要。

校長によって保護者への説明に差がある。これからは教育委員会が入って丁寧に説明する。

保護者の理解度を把握したい。(アンケート等)

◆会議録

司 会 (松田企画広報課長)	皆様、こんにちは。
出席者	こんにちは。
司 会 (松田企画広報課長)	皆様お揃いで、またご案内の時刻となりましたので、ただ今から平成30年度第1回犬山市総合教育会議を開催いたします。 1点、開会前をお願い申し上げます。いつもでありますけれども、本会議は、犬山市総合教育会議運営要綱の第4条に基づきまして、公開としております。併せてインターネット映像配信サービス、ユーストリームで同時に中継も行っております。開会の前にご理解、ご了承をお願いいたします。 それでは開会にあたりまして、山田市長よりご挨拶をお願いします。
山田市長	はい。皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	今年度最初の総合教育会議となります。昨年度までは条例であったり、基本計画であったり、そういうことでかなり大きな犬山の人づくりの方向性について議論して参りました。大変充実した議論ができたと思っておりますけれども、問題はこれからだと思っています。これからが一番重要です。今まで議論してきたことを今度は具体的に展開をしていかなければいけないということですから、正にこれからが非常に重要だということで、これからは「具体的な展開をどう進めて行くか」ということを視野に入れながら、ここできちっとPDCAと言いますか、ちゃんとそれが展開しているかどうかということも含めてしっかり見ていかなければいけない、と思っていますけれども、まだまだ「展開」と言ってもこれからだと思っていますので、今日の議題の中にも含まれていると思っておりますが、しっかり実際の具体的な

	<p>な部分を進めて、「犬山の人づくりはこうだ」というものを示していかなければいけないな、と思っております。</p> <p>それから、もう1点、新潟で残念な事件がありまして、今、テレビなどはそういう話題でいっぱいですが、やはり犬山も一見、平和な町に見えるわけですが、どこで何が起きてもおかしくないと、そういう時代だと思いますから、子ども達をやはり育ていく土壌として、やはり犬山の地域力と言いますか、そういったものをしっかりまた考えていかなければいけないな、ということに改めて感じさせられました。いずれにしてもまたこの総合教育会議で色々な議論を進めさせていただきながら、豊かな地域づくりに繋げていきたいと思っておりますので、また今年度も皆様方にはご指導賜りますことをよろしくお願い申し上げまして、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。</p> <p>では、よろしく申し上げます。</p>
司 会 (松田企画広報課長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、滝教育長、よろしく申し上げます。</p>
滝教育長	はい。失礼します。皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>新緑の眩しい季節、正に今の時期のことを言うのかな、と思っております。野山には色とりどりの花が咲き乱れておりまして、吹く風にも心地よさを感じる季節となって参りました。4月に30年度がスタートいたしまして、ほぼ1か月半が経過いたしました。学校現場ではまず「ゴールデンウィーク前を」ということを1つの目標にしながら、何とかこれを乗り切っていくことが1つの目標であったのかな、というふうに思いますけれども、このゴールデンウィーク中にここでは部活動の春の大会が行われまして、市内の中学校、それぞれの部活動でよく頑張ったな、それなりの結果を残せたな、ということをお思っております。市内の子ども達については、大きな事件、事故もなく、連休明けの教育活動が順調に再開できたというふうに聞いております。</p> <p>一方、市外、県外に目を向けますと、例えば滋賀で小学校1年生の女の子が側溝に足を滑らせて、水に流されマンホールまで。お父さんがマンホールの蓋を開けて救出をしたけれども、残念ながら命を落としたという事故がございました。また、先ほど市長のお話にもありましたけれども新潟では小学校2年生の女の子が、ということがありました。昨日あたり犯人らしき男が逮捕されたということで少し胸をなでおろしている状況ですが、いずれにしても、子どもたちが犠牲になる痛ましい事件が起こっていますけれども、先ほどの市長の話ではありませんが、他人事ではなく、「犬山でもそういうことが起きるかも知れない」という危機感を持ちながら、また教育行政を進めなくていかななくてはならないな、ということをお思っています。インディアンの教えの中に「少年期は手を放しても目を離すな」という言葉がありますが、学校だけではなく、地域全体・社会全体で子どもたちを見守る、そんな目を育てていく、見守っていただく目が必要だな、ということに改めて感じているところです。</p> <p>本年度は合計3回の総合教育会議が予定されておりますが、今日はその最初の会議です。30年度の教育施策を進める上で、市長並びに今日は高等学校の先生はお見えではないですが、教育委員の皆様方と意見交換をしながら、市長の思いを、また教育委員の思いを市長に伝えるというような貴重な機会だと思っておりますので、どうぞ忌憚のない意見交換ができることを大いに期待しております。どうぞよろしくお願いをいたします。以上です。</p>

司 会 (松田企画広報課長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではここで、本年4月に新たに本教育会議の委員としてご就任されました堀委員に一言ご挨拶をお願いしたいと思います。</p>
堀委員	<p>こんにちは。</p>
出席者	<p>こんにちは。</p>
堀委員	<p>堀です。ずっとこちらの方で長く幼児教育に携わっていました。今、それに携わるようになる学生を育てています。</p> <p>教育は、小学校から始まるのではなくて、お腹に居る時からもしかしたら。それから小さい頃ーゼロからだと思っております。</p> <p>家庭教育、学校教育、色々な教育を含めて考えていくのが役割かな、というふうに感じています。先ほど、このカラーのページを見せていただいて、他の委員さんに「これはどういうこと?」「これはどういうこと?」とお聞きしてまいりました。分からないこともありますので、色々教えていただきながら犬山の子どもたちが健全にたくましく生きていけるように頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。</p>
司 会 (松田企画広報課長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>今年度も引き続き市内の高等学校との連携ということで、犬山高校、犬山南高校の両校長先生にアドバイザーとしてご出席をいただく形であります。本日は県の校長会ということでご欠席の連絡をいただいておりますが、犬山高校におきましては、引き続き祖父江校長先生、そして犬山南高校におきましては、前木和田校長先生が定年でご退職ということで、後任の福島校長先生にアドバイザーをお願いしております。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは議事の前に資料の確認をいたします。先週、お手元に郵送しましたが、改めて確認をいたします。次第、名簿に続きまして、資料の1です。カラー刷りの資料の「2018 教育課題へのアプローチ(教育施策の検証)」でございます。続いて資料の2ですが「『幼保小連携』と『言語(国語)に関する幼保のカリキュラム』」でございます。続きまして資料の3は、「平成30年度 総合教育会議開催スケジュール(案)」でございます。加えまして、本日お手元のほうに追加資料としまして、「国語教育に対する市長の考え」というペーパーを追加配布しております。資料はお手元のほうにお揃いでしょうか。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、これ以降は議事に入りますが、犬山市総合教育会議運営要綱第3条に基づきまして、山田市長に議事の進行をお願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。では、私の方で議題を進めさせていただきます。</p> <p>すみません。勝手に議題の順番を変えさせていただきますが、2番を先に説明してください。</p>
事務局 (小枝主査)	<p>それでは資料3「平成30年度 総合教育会議開催スケジュール(案)」をご覧ください。</p> <p>今年度は、年3回の開催を予定しております。開催時期は、第1回が本日、第2回は10月を予定しております。そして最後の第3回を1月下旬から2月の上旬ごろに開催したいと考えております。</p> <p>協議の内容につきましては、本日、協議していただく予定の「今後の教育施策の取組について」を年間を通じて協議していただきたいと考えております。なお、10月に予定している第2回の会議では例年通り次年度ー今年の場合には「平成31年度の教育関係予算について」ご協議いただく予定です。その他の協議内容につきましては、定例教育委員会等における議論を参考に、その都度、決定させていただきます。</p>

	<p>いと考えております。また本日も後段に設けておりますけれども、各会議の最後には皆様による「自由討議」の時間を設定する予定です。基本的なスケジュール案は以上のおりとなりますが、一番下に「緊急会議」というものがあります。これは法に基づき、「児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生じるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置」ということで、本来、あつてはならないことではありますが、緊急の事態が起こった場合には皆様にお集まりいただくこととなりますので、どうかよろしく願いいたします。説明は以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。何か皆さんの方からスケジュールについて意見があればご発言をお願いします。いかがでしょうか。特になければ、このように進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>はい。では特に意見も無いようですので、スケジュール案のおり、進めさせていただきますので、よろしく願いを申し上げます。</p> <p>順番を変えまして申し訳ありません。では1番目の「今後の教育施策の取組について」というところで事務局の方から簡潔に説明をお願いします。</p>
事務局 (神谷指導室長)	<p>お願いいたします。最初に学校教育課 神谷が説明いたします。</p> <p>資料1「2018 教育課題へのアプローチ」をご覧ください。これまで教育施策の検証を行い、保護者、地域にその効果が実感できるように運用の見直しを行って参りました。読解力に関する課題は、「学力 学習状況調査 国語B」の結果からも見えてきています。また、犬山市の子どもたちは他自治体と比較して読書への関心が低いという結果も確認されています。学力向上につなげるために基礎、基本の定着を図り、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を種々の教育課題の根底にあるものと捉え、それぞれの学校が抱える課題や、校長が思い描く理想の学校像実現のための取組を尊重しつつ、共通の研究テーマに読解力向上を掲げることを提案しています。</p> <p>今年度は「犬山市子ども読書活動推進計画」策定の年であることから、各学校での図書館利用、読書活動に更なる工夫を凝らすため文化スポーツ課との連携を深めていきたいと思っています。</p> <p>読解力向上はどの学校も目標にするところであるので、3年間で全ての学校が「読解力向上」中心の取組にできるような魅力ある支援を講じていきたいと考えています。</p> <p>最下段の「基本施策」一覧をご覧ください。来年度、3学年を抽出し、国立情報学研究所が開発しました「リーディングスキルテスト」を実施したいと思っています。それにより現状を把握いたします。実践している自治体では、このテストを導入しただけでも結果が出てきているという報告があります。兎にも角にも教職員に危機感を醸成できたという報告を受けています。事業改善は、永遠のテーマとして教員の全エネルギーを注がなければなりません。経験値が少ない教員が増える中、「読む」「聞く」「書く」「話す」それぞれの年齢での到達目標を示し、更に魅力的な事業づくりによって現れてくる子どもの具体の姿を示すことで、教師自身のゴールを見やすくします。来年度からは校内研修で「読解力向上」をテーマにする学校をできれば2、3校抽出し、研究を委嘱して進めたいと思っています。並行して施策の運用方法を見直しています。今までの教育施策の見直しも行っておりますので、学力向上のための効果的な長期休業の使い方について研究します。具体的には家庭教育ソフトの活用です。子どもたちが出来る喜びを体感し、自信をもって9月を迎えられるようにします。学校と共に進める教育施策に対する検証3部会が三位</p>

	<p>一体となって子どもたちの感性豊かな成長を支えていきたいと考えています。タイムラインについては、教育委員会主導で進めるものの、学校がその気にならなければただの負担となりかねません。また、既に重点目標を決めて取り組んでいる学校の姿勢を尊重しなければなりません。3か年を「気づく・つかむ」1年目、「挑む」2年目、「活かす」3年目として進めて参りたいと思っています。提案は以上です。</p>
山田市長	<p>はい。これは2の方もいっしょにやってしましましょう。資料2のほうも。</p>
事務局 (小島子ども・子育て監)	<p>はい。続きまして小島のほうから「『幼保小の連携』と『言語（国語）に関する幼保のカリキュラム』」について説明いたします。</p> <p>資料2をご覧ください。国が進める「幼保小の連携」ということで、幼児教育におきましては幼稚園、保育所、認定子ども園、この3つがございしますが、それぞれに要領、指針等を定めて教育を進めているところでありまして、これが平成28年度にトリプル改定ということで同時に改定をされました。その主な内容の一つとしまして「全ての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の総合的な提供を行う」とされています。幼保小の接続の強化としてアプローチカリキュラムが示され、下にあります10項目が示されました。その中で国語—いわゆる言語という領域になりますが、そこに関する事項としまして、8番「数量や図形、標識や文字への関心・感覚」それから9番「言葉による伝え合い」この2項目が示されております。</p> <p>一方、犬山市におきまして、幼保小の連携がどう取られているかを2番に示してあります。犬山市につきましては、犬山市未来センターが設立をされまして幼保小の連携を進めているところでありまして、幼児教育、保育と学校教育との連携といたしまして、幼保小で行われる「合同研修会」、就学時の充実に向けた事業としまして、「1年生の情報交換会」、「幼保小担任連絡会」、「就学児の情報交換会」年に3回小学校と幼保が集まって話をする機会を設けております。それから子ども未来園の一日体験研修としまして、小学校の先生が子ども未来園に行きまして一日体験をしていただく、こういうような事業もしております。それから保育要録としまして、保育園の方から小学校へ繋ぐ資料ですが、これの研修も行ってあります。それから私立の幼稚園、私立の保育園など、なかなか連携が難しいところではあります。これにつきましても研修会や、研修の情報提供や、就園状況の把握、未来センターが機関紙を発行して情報の提供に努めております。</p> <p>裏面をお願いいたします。3番としまして、国が指針や要領に定めているところの説明をさせていただきます。言語に関する領域としまして、「言葉」というものが幼児教育、保育において定められております。これに関して「ねらい」ということで3つが示されていて、それぞれ内容、保育士が配慮する事項などが細かく示されているところです。</p> <p>4番として「犬山市ではどうなっているか」ということで、幼保の共通カリキュラムを定めてあります。これは平成14年に策定をいたしまして、26年度に2回目の改定をしたところです。これを策定する時には、幼稚園の教育要領と保育所の保育指針を合わせて一つのものを作っております。保育目標の中には、言葉に関する事といたしまして、「日常生活に必要な言葉を豊かに正しく身につけます。」これを目標としてあります。このカリキュラムは年齢により8区分に分けてありまして、最終一概ね6歳の姿では言葉に関することを3つ掲げてあります。また、このカリキュラムは、年齢ごとに4期に分けてありまして、例えば3歳児の第4期では、言葉に関する目標が表の中にあるような形で示され、3、4、5という形で一覧表になってあります。このカリキュラムを基に保育士・幼稚園教諭は月案、週案で更に具体的な自分のカリキュラムを作成して保育・幼児教育に当たっている次第です。</p>

	以上です。
山田市長	はい。説明は終わりました。この件について皆さんの方からご意見、ご質問等があれば発言を認めたいと思いますがいかがでしょうか。
高木委員	では、お願いします。
山田市長	はい。
高木委員	少しカラー刷りのことを質問ということで。1枚目のカラーの2枚目のところにあります最後の行の「共同」という文字でまずいいのかな、と。流行りの色々な字がありますので、そういう意味の「きょうどう」ではないのかな、と。何が適しているのかわかりませんがーということ。
山田市長	どこですか？
高木委員	「読解力」と書いてある…
山田市長	なるほど。
高木委員	それから下の段の幾つかで、「抽出3学年」というのは、前回あった小4と6と中2の3学年でいいのかということと、もう1点、その下ですけど、「国語辞典と英和辞典の給与」というのは、国語辞典については私は知らないもので、いつに給与されるのか。英和辞典については多分小学校卒業の時かなと思いますが、それだけ教えてください。お願いします。
山田市長	はい。今、質問ですから。いいですか。
事務局	はい。
山田市長	はい、それでは神谷さんお願いします。
事務局 (神谷指導室長)	はい。「きょうどう」は「働く」方ですね。考えているのは「働く」方でした。
滝教育長	「きょうどう」の「どう」が「働く」ね。
事務局 (神谷指導室長)	はい。
高木委員	「きょう」はこれでいいですか。「協力」というのもありますよね。
事務局 (神谷指導室長)	その辺は少し皆さんと今年度、諮らなければならぬですけども。それからリーディングテストですけども、リーディングテストは中2、小6、小4。
滝教育長	中2、小6、小4？
事務局 (神谷指導室長)	中2、小6、小4を考えています。
山田市長	いいですか。
高木委員	はい、ありがとうございます。
事務局 (神谷指導室長)	もう1つ辞典ですかね。国語辞典。
山田市長	そうですね。
事務局 (神谷指導室長)	英和辞典はおっしゃるように小学校の卒業時に卒業記念品として給与しております。それと替えていければ替えるというふうに考えておりますけれども、小学校の入学時に国語辞典を与えられないかというふうに考えております。予算も関わってくることで、今、現場に調査をかけて、英和辞典の活用度合いー授業での或いは家庭での。それから国語辞典も何年生にどれくらいのものを求めているか。家庭に求めているかその辺の調査をして、諮っていきたいと思っています。以上です。
滝教育長	今の英和辞典の関係ですけども、小学校の5、6年生に教科としての英語がく

	ると、中1段階での卒業記念という少し遅すぎてしまう状況になるものですから、では英和辞典がいいのか、それとも小学校の入学した時点で国語辞典をどんどん活用して子どもたちの語彙を増やしてやる一國語教育に重点をおけるような環境を作っていくのいいか、ということ併せて検討していきたいな、ということです。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	2つ。今の国語辞典において、到達度相によって国語辞典の領域が変わると思うのですが、小学校レベルであれば小学館のものでいいですけども、やはり中学、高校になる場合にはもう一つ少し大きなものを一文字数が多いものを選定する学校もありますので、その辺りも含めて加味いただけるといいかな、と思います。 もう1つ、「図書館活用カリキュラム」、「図書館改造」という部分なのですが、これは犬山市の図書館という意味なのか、各学校の中の図書館という意味なのか教えてください。
事務局 (神谷指導室長)	はい。1つ目のご意見は貴重なご意見として承って、この後の調査に使って参ります。 「図書館活用カリキュラム」は、基本的には学校の図書館を使うということですが、今、連携をしております、事前に単元がわかり、その単元に「何が必要か」ということを司書に伝えておくと、いろんなところの図書館から借り集めることができます。そういった活用も考えています。
山田市長	はい。他にご発言ありますでしょうか。
田中委員	すみません。
山田市長	はい、田中委員。
田中委員	国語辞典、英和辞典のところで、例えば今、大学生などは電子辞書をばんばん普通に使う世代だと思います。大学生などは「電辞」と略されて、私は何のことだか分からなかったですけども、学生はそういうふうにするぐらい一般的に使われていると思います。だから、これも学校現場の先生でどういうふうにして、どういいうご意見を持っているかということも確認していただきたいです。おそらく電子辞書を使うよりはおそらく紙媒体の辞書の方が学習上、効果があると私は思っています。その辺りで特に中学生段階において例えば英語を調べる時にどのぐらい電子辞書が普通になっているのかとか、それによって単語の理解とか、英語の理解力というのが紙媒体の辞書を使っている子どもと電子辞書を使っている子どもと差があるのかどうか、そういうところの実感も少し現場の先生方で共有した上で「じゃあどういいうふうな対応が必要か」ということを考えていただければ。
山田市長	はい。意見として。
事務局 (神谷指導室長)	はい。
山田市長	他にご意見ありますでしょうか。 はい、堀委員。
堀委員	「幼保のカリキュラム」のところですか。新しい指針の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」のところ「言語に関する事項」として、8、9とありますが、すごく大事にしたいのが10かな、と思っています。特に乳幼児期にとっては、このところが一番国語力に繋がるのではないかと。全体的なことがまとまって、大事なのは幼保のところだと思いますが、特にこの「豊かな感性と表現」というところは強く入れていただきたいと思っています。
山田市長	はい。そういうことを大事にして「感性」というのは特に…。「感性豊かな人づくり」を目指そうという一番の根幹に係わるものですから。

	他によろしいですか。ご発言は。
紀藤委員	すみません。
山田市長	はい、紀藤委員。
紀藤委員	今の堀委員のところ、 「言語に関すること」ということで、僕は8と9に絞られたのかな、と思います。「豊かな感性と表現」というのは政策にも全部入っているので、表現する喜びを味わうような、「友達に伝えるためにこういう絵を描いた」とか言葉ではなくて、言葉の方は8、9だと思うので、そこに絞られたのかな、と思いつつ僕も10番をあれていました。確かに8、9、10-10番はもう全て犬山市のあれには「感性豊かな人づくり」ですので、そういう意味でいくと含めるのかな、と思いますが、「言語」と言われると8、9かな、と思いました。
堀委員	はい。すみません、堀です。
山田市長	はい、堀委員。
堀委員	実は、私、これを見せていただいた時に、慌てて指針の解説本をバーッと見て、そここのところに割と言語が入っていたものですからーこの10のところ。ですから、今、そういうふうにお伝えしたということです。
山田市長	はい。 他によろしいでしょうか。
紀藤委員	「表現する」という…ごめんなさい。
山田市長	はい。
紀藤委員	「表現する」ということでは10番が、それが言葉であるのか、音楽に合わせて体で表現するのか、それから製作する絵で表すのかということだろうと思いますが、関係ないわけではありませぬので。はい、すみません。
山田市長	はい、いいですか。少し僕の方から言わせていただきますけれども、くどいようですが、何のために国語力を抽出していくのか。何故これをやるのか。それを踏まえてー当然、理念、戦略、戦術でタイムラインというのがあるので、僕の考えでここに全部書いてありますが…。いちいち全部言いませんが。それを早く進めた方がいいですね。この個別具体のことが先に進んで行きますが、それは理念、戦略、戦術、タイムラインがあつて初めて個別具体のことが出てくるはずなので、もちろん理念、戦略、戦術、タイムラインが全部完璧にすぐには整わないと思いますし、段階を踏んで考えていくことはあると思いますが、「何のためにやるのか」というのが、言葉の揚げ足をとるわけではありませぬが、総合調査で読解力が低いから、そこを底上げするというものでは決してありませぬ。日本で一番読解力が優れた調査結果が出たとしても、これはやらなければいけないと、私はそう思っています。 「何のためにやるのか」ということを最初に明確にしておいた方がいい。これは必ずお願いします。早くそこを明確に。その答えは既に教育大綱、振興計画、これを作っていく中で答えはそこに入っているはずなので、早く明確にして欲しいと思います。 それから、僕が「簡潔に」と言ったので、説明というか…。まず意見ですが、ESDというのは、持続可能な開発のための教育みたいな…これはユネスコか何かの関係かな？ ユネスコか関係ですか？
事務局 (神谷指導室長)	はい。ユネスコの方も一応関係あります。
山田市長	含まれるかな？
事務局	はい。

(神谷指導室長)	
山田市長	<p>E S Dという表現はやめた方がいいと思う、一般的には。ここの中ではいいですが、一般的にはやめた方がいい。E S Dというのは一般語ではないので、分かる言葉にした方がいいと思います。</p> <p>それから「何から始めるのか」というサイクルの順番というのは、おそらくこの順番をイメージしているわけですね？ この右側の順番をイメージしてみえるのですね？</p>
事務局(神谷)	違います。
山田市長	違うの？
事務局(神谷)	これは例えです。それぞれの学校が、例えば東部中学校は英語教育、犬山中学校は読解力を一番にやりたいから、それぞれの学校の中にも大小それぞれ課題がある中で例えばぐりっと回して「まず読解力から初めてみよう」という例えの図ですので、このE S Dも含めて、言葉自体は…。例として取り扱っています。
山田市長	なるほど例ですね。では、ここで言わんとするのは、今はいろんな順番があるけれども、これからは「読解力を一番にしましょう」と、こういう意味ですね？
事務局 (神谷指導室長)	そういうことです。
山田市長	<p>それなら理解しました。是非、それを進めてください。</p> <p>あとは、僕の考えはペーパーで出していますから、一度議事録を残すために読ませていただきます。</p> <p>国語教育に対する私の考え。1つ目は「国語教育充実に向けた理念・戦略・戦術・タイムラインを明確にする」これは早急にというふうに考えています。それから「リーディングスキルテストのような現状把握は賛成ですが、実施をするならそれを活用できるPDCAサイクルをきちっと構築する」ということ、それから3つ目、「児童生徒だけではなく、幼児期からの読解力向上への系統的な計画を樹立する」つまり先ほど子ども未来課のセクションで考え方をおっしゃっていただきましたが、これはタイムラインと僕は言っていますけれど、子どもが生まれてから義務教育以降も本当はそうですが、とりあえずこの中では義務教育の中で捉えるとして、それはちゃんと繋がりがあるといえるのか、連動して一体のものとして考えていく一系統的な計画を樹立すると。それから4点目、「国語教育の観点で、他教科にも横串を刺して、他教科の中でも国語力向上を意識した授業づくりをする」。国語力を国語教育の中だけで捉えるのではなくて、社会課であろうが数学であろうが音楽であろうが美術であろうが体育であろうが全ての教科の中で国語力を意識した授業づくりをする。これは絶対にやって欲しいと思います。5つ目、「古くからの日本文学を大切にしたい」。6つ目、「知見のある専門家を投入したり、外部機関との連携により、専門的・継続的なアドバイスを受ける」。研究などを進めて行ったり、形を作っていく上で、この狭い範囲の村の中だけの議論でこれが一番だと思っても実は世の中に出てみたら、とても時代遅れだったということもあるので、知見のある専門家を是非、それもトップレベルの人—できるだけトップレベルの方の力を借りるということも大事なので、我々がこれからこの国語教育、国語力の充実を図っていくためのカリキュラムだとかタイムラインを作っていく上で、やはりトップレベルの専門家の知見を活かすべきだというふうに思います。そのための予算措置であれば、私も十分それは考慮していきたいと思っていますので、お願いしたいと思います。それから7つ目、「『日本一の国語教育を目指す』という高い目標を謳って欲しい」と。実際にそれを謳うかどうかは別にして、今、話したこととリンクする</p>

	<p>かも知れませんが、この狭い範囲の中だけで考えるのではなく、「日本一を目指す」と。「何をもって日本一か」ということがあるかも知れませんが、「日本一」を絶えず目指して、それを追い求め続ける。その頂点という目標をやはり「日本一」と掲げて、それを追い求め続けると言いますか、高いレベルを求めていくという意味で申し上げているわけですが、そういう目標をもってこのプロジェクトをしっかり進めていただきたいというふうに思います。私の考えとしては以上を述べさせていただきました。</p>
滝教育長	一つ質問させてください。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>4点目の「国語教育の観点で、他教科にも横串を刺し、他教科の中でも国語力向上を意識した授業作りをする」と。色々な教科の特性があるものですから、意図は分かりますが、例えば体育の授業で国語力を意識した授業というのはどういう具体的な授業場面が…と言ってもなかなか頭に思い描けないのですけれども、市長の頭の中で今、どういう場面が想像されているのかな、と。少しそれが分かれば…。</p>
山田市長	<p>体育の場合は例えば何か技術的なものとか、そういった指導をする場合もあります。そのような競技とか種目に関して言えば。そういう競技でも論理的に物事を伝え—もちろん実際にやって見せたりとか、技術的なことは色々それを解説する書物であったり、言葉であったり、実際に目で見て伝えるものがあつたりと色々あると思いますが、やはり少なくとも「指導」という形で言葉を使う以上は、やはりそういうものを意識して論理的な思考を身に付けていくと。スポーツもやはり科学ですから、単に体力とか技術とかそういうことだけではなくて、自分の力量を向上させていったり、体力を向上させていったりすることにも情報を活かすという場面が多々あると思うので、体育の指導の中でも国語力の向上を意識した授業作りというのは十分想定ができるのかな、というふうには思います。</p>
滝教育長	<p>例えば「国語力」という言葉を使ってしまうから何かスッと来ない部分がありますが、例えばマット運動をしたり、器械運動をしたりした時に1人の演技を見て、「ここはこうするといいよ」「あそこはこうするといいよ」というような情報のやりとりをしながら、その子の技術向上に向けてお互いに情報交換をやっていく。それも今、市長が思い描かれている場面として捉えてもいいですか？</p>
山田市長	そういうこともあるでしょうね。
滝教育長	<p>本来、一人で学ぶのではなく、みんなで学び合うという場面があれば、必ず言葉のやりとりがあるから、これは全て言葉のやり取りだとか、話し合いがあれば国語力向上を意識した授業というふうに取りえないこともないだろうな、ということは思います。</p>
紀藤委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	<p>小学校では体育で、例えばマット運動をやるとそれをビデオに撮って、すぐにここで見て、良かったところを話し合いますよね。それはもう日本語でやっているの、国語力だと思んです。その表現—ただ「良かった良かった」ではなく、どこが良かったか細かく話せるというのが市長さんの言うことだと思うので、それはもう現場でやっていることですし、教科書自体が、中学校の保健体育の教科書も全て日本語で書かれているので、それを読み取るという場面を考えれば、全て国語力だろうと思います。数学の問題を読むのも国語力なので。そこで細かくこれとこれとこれを関連づけてと言えはもうそこで自然に我々、と言うか先生方はやっているのではないかと思いますけれども。英語だと「英語で考えなさい」という、今はもう</p>

	<p>そういう教育に変わってきていますので、「英語で考えられる子でないといけない」と。英語が喋れるだけではなくて、英語で物ごとを考えるということなので、今、日本語で色々な指導をし、日本語で書かれた一漢字、ひらがなで書かれた本を読んでいますから、そのようにとるしかない。それはもう読解力の一番基礎だろうと。それはおっしゃる通りだと思います。ですから現在やっている授業を更に「もう少し、その辺を分析しなさい」ということと、捉え方でよろしいですか。</p>
山田市長	そうです。
紀藤委員	「意識して言葉を大事にしないさい」と。
山田市長	<p>いえ。あまり細かいところまで「どういう意味だ」「こういう意味だ」という話になると。バクツとした話で僕も捉えているものですから、とにかく日本一になろうと思ったら、初めから「私は10番でいい」と思っていたら日本一にはならない、そういう意味です。だから高い次元を求めようと思うとすべての教科の中でも考えていくぐらいのことはしないと。もちろんそうして欲しいから書いているわけですが、単なる意気込みだけで言っているわけではなくて。</p>
高木委員	いいですか。
山田市長	はい、高木委員
高木委員	<p>来週から学校訪問が始まって、見させてもらいますが、学校訪問で私はいつも最初に見るのが国語と道徳で、ものすごく興味があって、自分は数学で、もちろんそれも見ますが、それがやはり一番に見たいな、と言うか指導案からそれを中心に見させてもらうようにしていますが、やはり自分自身も思いますが、国語が一番指導するのが難しい教科だというのが自分の中にあって、例えば授業の中で「これが読解力なのかな？」と思うような、本当に文節・文節を1時間の中で読み取るような授業が多いという感想があります。でも私自身は、国語は、最初に戻りますが「感性」というのが一番大事になってくるのではないのかな、と思うので、だから逆に難しいと思うのですが。絡んで道徳なんかも教科化されているのが、私は疑問で仕方がないですが、やはり「生き方」というか「感性」というか、そういう価値観—「いろんな価値観があるんだよ」というものを先生方が指導をしていくというのが道徳であるし、近い意味で国語というものがあるのではないかと思っているので、そこを上げていくには、教員の資質を向上させることが一番大事なことであるのではないかと思います。アクティブラーニングという言葉が今、流行っていますけれども、それもやはり国語の授業で「グループになって意見を1つにまとめなさい。」というもの、それが本当にいいのかどうか。数学などは教え合いながらそれをまとめて理解していくというのは大事ですが、国語でそういうものが必要なのかな、と思うことがあるものですから、定例教の中でそういう意見を今度学校訪問の回った中で言わせてもらいたいな、ということは思っています。意見です。</p>
山田市長	はい。
滝教育長	一ついいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>これは、僕は言葉を大事にするということなのかな、ということを思いました。一切り前の学習指導要領では「言語活動」という言葉がよく使われていました。「言語活動」—当然、「読む、書く、聞く、話す」ですけれども、最近の要領を見ますと、少しその辺りが薄れてきている部分がありますが、例えば算数の授業であれば、計算の仕方だけ身に付けさせればいい。体育の授業であれば技術的な力だけ付けさせればいい。というのではなくて、その過程の中でいかに言葉を大事にしてコミュニケーション能力を高めていくのか、それには当然「聞く」「話す」「読む」「書</p>

	<p>く」というような言語活動も含まれているわけですが、それを先生が意識して「1時間の授業を単に工夫ができればいい」というのではなくて、その過程の中でいかに言葉の力を高めていくかというように意識していけば、大分、子どもたちのそういった言語能力が高まっていくのかな、と。その言語能力を高めるといのは、ひいては読解力に繋がるし、そういったことを先生方が意識するだけでも違うのかな、と。だとするならば、例えば体育の授業或いは算数・数学の授業だけでも、この授業でいったいどうやって国語力を高めていくことができるのか或いは高めようとしているのかということが指導案の中に示され、それが実際の授業の中で「それがこの場面なんだな」ということが実感できるような場面を設定していけば、これに近いような授業が実現できるのかな、ということをお思いますけれども。</p>
山田市長	意見として、それは…。
紀藤委員	昔から…すみません。
山田市長	はい、どうぞ。
紀藤委員	昔から国語が一番の基本であることは間違いないので、だからそれをより市長さんの考えは明確にここに出しているというふうに捉えて、やはり先生方も意識して、授業を。そして私自身もそうですが、自分の言葉も大事にしないと言語環境を「おい！おい！」とか言っていてはいけないので、相手に伝わるような聞き方、話し方がやはりあるのかな、と思います。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	<p>はい。僕はもともと国語がすごく大事だと思って、市長さんがこうやって出されているのは非常によく分かります。この知見のある専門家というのを是非とも一人だけというわけではなく何人かという形で色んな角度から見ていただくというの是非進めていただきたいな、と思います。</p> <p>先ほど、教育長が言われた色々な他教科という部分においてそういう専門家の方に他教科も見ていただく一語だけではなくて。そうすると他の教科も国語に対してどういうふうな考えを持ってできるかな、と思いました。あともう1つこの中でどうしても「国語」というものが関係ないものというものが英語教育でして、日本一というのを掲げるというのはもちろん素晴らしくて、それを目指さなくてはならないと思うのですが、では英語はその分だけ放っておけばいいのか、というところという訳ではないと思うので、このPDCAサイクルのいわゆる「確認」というのか、そういったところの見て行くところも英語がもちろん偏りがなく「英語もしっかりと支えていますよ」という部分も見ながら進めていただきたいな、というふうに思います。英語もやはり教科として小学校からやっていくに当たって、中学校の分が手薄になってしまうというわけにはならないです。そこをしっかりと押さえていただきたいな、というのが少しあります。</p>
滝教育長	いいですか。
山田市長	はい、滝教育長。
滝教育長	<p>中学校ではやがて全てオールイングリッシュで授業が進むことになっていますが、小学校5年、6年から教科として英語がスタートするわけです。英語がスタートする時点では当然、英語と日本語をやりとりしながらいかれると思います。ですから英語の力を高めていくためにも、やはり日本語というのがそこに比較として出てくるわけですので、いきなり最初から英語で言われてもチンプンカンプンで子どもは分からないですけれども、その辺りの日本語との対比をしながら、これはやはり最終的には「言葉を大事にする」ということでは繋がっていく部分があるのかな、と。また、先生方もそういった意識をもって授業に取り組んでいただくようお願い</p>

	いしなければいけないな、と思っています。
小倉委員	はい。
山田市長	はい、小倉委員。
小倉委員	<p>私が思ったのは、ゴールとして読解力ではなくて、ゴールは本当にスタートであって、ゴールのところには自分がいろんなものを情報として収集したものを「これはいいもの」「悪いもの」と判断して自分がそれを考えて、それを次に表現をするというところがゴールであって、それを持って社会に出た時に仕事ができたり、人とのコミュニケーションができたり—というところがゴールで、「読解力」ということがベースになるということでもまず取り上げられたということだと思いますが、大きなゴールというところを多分、市長が言われる「理念」だと思いますが、そこをすごく大事にして、「まずこれができたから次はこれ」というふうに順番に系統立てて考えないといけないな、というのをすごく思っていて、感性を大事にしつつ、本当に最後は活用して、表現をどこまでできるかな、という応用の心を伸ばしていきたいな、と思うし、きっと技能的なところだと思います。例えば「言葉を増やす」とか「漢字を覚える」、「文法がある」、そういうところはきちんと押さえていただいていると思っているので、その次のところもすごく大事したいな、というふうに思いました。</p> <p>この「市長の考え」の4番のところ、私はこれが一番引っかかったというか、グツとした所ですけども、自分が簡単に考えるところと言えば、例えば算数の問題で文章題があって、「お魚さんが3匹いました。隣のお店で3匹買いました。あわせていくつですか。」と言って、答えを求めることはいつでもしているのですが、反対に「3足す3は」という問題を出されて、「この問題を作ってみよう」とか展開するものはいっぱいあったり、社会で言えば自分の街の中で何か面白い看板を見つけて、それを解釈ではないですが、「説明してみよう」ですとか、答えはもちろんありませんが、そんな面白いことというか、楽しい授業の中で、表現をする楽しさができたら授業も楽しいのかな、と。それを毎回、毎回やっていたら時間がなくなってしまうので、月に1回の楽しみではないですけど、そんな楽しい授業が節々のところであつたらいいな、というふうに思いました。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ほかによろしいですか。いいですか。</p> <p>では、色々意見が出ましたが、またそうした意見もふまえて進めていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>では、議題のほうはこれで終わらせていただきます。</p> <p>引き続き「自由討議」ということですが、この際、皆さんの方からご発言があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>はい、紀藤委員。</p>
紀藤委員	<p>今回、新潟の事件で犯人が捕まってみたら、町内にいると隣にいるというあまりに異常な人だったので…。不審者情報はいっぱいあります。最近ではアプリでも地図上に出てくるようなものがありますが、やはり各学校でいろんな不審者を聞いた時に、今も小学校で「ここであつたよ」或いは「ヒヤリマップ」、ああいうものがありますが、それをどんどん構築して行って、是非、数年前からの蓄積で「ここはやはり良く出るな」というところがあれば、警察のパトロールをお願いするとか、住民に聞くという、そういうやりとりをしていくと、そういう不審者も出づらくなるという—そんな状況にしていくように各小中学校で「ヒヤリマップ」の中に更新というか、どんどん付け加えて行って、資料をたくさん集めてもらいたいな、と思い</p>

	ますけれども。メールではたくさんポンポン、ポンポンもらうのですが、僕はメールでもらって、「そうか、これは小牧」或いは「犬山だ」と、終わってしまっているのですが、やはり地図上に入れると。今回の場合、ニュースでやっていましたが、全部こうやって入ってくるんです。最終的にそこの近くになってくるという感じがしたので、是非、小中学校でもそういうものをお願いしたらと思いますけれども。
滝教育長	各学校はハザードマップというものを作っているんです。ただ…
紀藤委員	更新がなかなかできないので、子どもたちにもピンで今日あったところを貼るぐらい、付箋でもいいですけれども。少なくとも工夫はしなければいけないな、と今回、それを強く思いました。やはり放送局というのはすごいな、と。そういう情報を全部集めてきて地図上に載せてみると「ああ、こうもあるのか」と。そんなものを見せていただきながら、今回のニュースはずっと見ていました。
滝教育長	今回の件を参考にして、どの学校も子どもたちの登下校或いは家庭での生活も含めて、今、おっしゃったようなことを注意喚起したり、情報を更新し、提供をするような場面を作っていただくように今、対策をについて…。
紀藤委員	同じことも続けば少しパトロールするとかしないといけないだろうと。たまたま踏切のこちら側で今まで立っていた人が立たなくなったと言え、近所に住んでいた不審者はそういう情報はすぐに分かりますから。そういうところを狙われたのかどうかは、分からないですけれども、今回のことに関して。だから僕も無神経にメールをもらってそのまま「はい」と終わっていないで、自分の地図ではないですが頭の中にきちっとインプットしておかないと子どもたちへの指導はできないかな、というふうに思っています。 皆さんはどう思われたか分かりませんが、最近不審者情報はそんなにないですよ？
事務局 (神谷指導室長)	あります。
紀藤委員	あります？
事務局 (神谷指導室長)	はい。他市町まで含めるとあります。
山田市長	情報共有が大事ですね。 他にございますか。 はい、田中委員。
田中委員	今回、市長の方から、特に国語教育を重点的に今回、話し合いをしました。おそらくこの総合教育会議の場というのは、もちろん市長からの提案だけではなくて、全員がフラットな形で、それぞれの教育委員が、通常の定例会議ですとやはり目の前の色々な具体的な業務についての話し合いが多いので、理念であるとかそれぞれの委員も教育的な考えというものを抽象的なレベルなんかではなかなか意見を言い合う場がなかなかないので、今後—今回も含めてですけれども、市長だけではなくて色々な教育委員から、実現するのかどうかというのは別として、「日本一の犬山」という言葉が出ましたけれども、そういうような理念的なところをもっと我々も出していきたいな、というふうに思っています。 前回、定例会の時に市長の7項目のことをお話されて、「『日本一の犬山』というものはどういうものなのだろう」ということを考えて、例えばこれを明示化して発表して大々的に、というふうにやるものではなくて、おそらく職員を含めて、教職員と教育委員会事務局も含めて我々教育委員も含めて胸に秘めつつというか、「一

番を目指す」ということをどういう形かということとは別として、やっていかなければいけないな、という思いはすごくよく分かりましたし、国語自体もやはり一番核になるものだということは私も思っています。

それで1点、6番目のところで、「知見のある専門家を…」というところで、やはり学校の現場の現場の状況を見ますと、外部の専門的な見方というものから風を入れるという意味でも、おそらく有意義だろうと思いますが、一方で「専門家」ということと言えば、教員も本来的には「教育の専門家」であって、本来であれば「外部の研究者がなくても自分たちだけでしっかりやっていけるんだ」ということがおそらく望ましいのかな、というふうに考えたところです。それで、定例会の方ではずっと、例えば「多忙化解消」ということで、部活を減らしていくかということも中心的に議論されているところです。そこでの議論とも繋げて先ほどから考えていたところですが、先生が「多忙」と「多忙感」とは違うというような話を伺ったことがあって、もちろん多忙というのは解消されるに越したことはないのですが、実際、充実感があって一やりがいがある忙しいというのは、仕事としてそれは非常に良いことであって、学校現場の先生はほとんど抱えているのは「多忙感」一本来的にこれは業務の裏でやらなければいけないことということが多すぎて、実際子どもと向き合ったり、授業研究をする時間が無かったり、そういうことがおそらく問題になってくるというのが現状であろうかと思えます。当然、市長の「国語力向上」というキーワードから、それでも現場の先生がどういうふうに解釈をして自分に或いは子どもにとって必要になれるかということを考えていって欲しいのですが、その上で教育委員会としては1つ、今回の教育の内容面のところが中心的に議論がされましたけれども、教育条件のところを前提として、教員がそれぞれ「国語力向上」であったり、様々なところで「学びの質を高めていく」ということをするための「条件」を我々が考えていかなければいけないな、というふうに思っています。

それで前回の会議で少し議論になったのが、保育園ですけれども、日本中どこでもそうですが、幼稚園と保育園と学校というのは、事務職員が居るかないかという大きな違いがあって、保育園の先生、幼稚園の先生というのは事務職員を兼ねて仕事をしているわけです。一方で保育の専門家、教育の専門家であれば、例えば電話番号もそうですし、様々な諸業務もですけれども、そういう本来、教育の専門家、保育の専門家がやらなくてもいいことをおそらく相当肩代わりしてやっている。その分、子どもと向き合う時間が減っていたり、専門的なことに取り組む時間が減っているというような現状が全国どこでもそうですが、あると思います。学校もおそらくそうだと思います。なので「事務職員」のところを一例えば「犬山では保育園に事務職員を置いています」とか、そういう一犬山は「学びのまち」或いは「日本一の犬山」ということを目指す上で、「条件をどうしていくのか」というところも今後議論できたらな、と思います。

1点、昨年度の総合教育会議の自由討議のところで少し話させていただきましたが、私は専門で「教育費、教育財政」を得意としています。色々な自治体と比べてみると、例えばテスト用紙であったり、印刷代が保護者負担に犬山はなっていますけれども、名古屋市なども全部公費で賄っている。保護者負担という観点で見ても教育条件ではまだまだ日本一になるためにクリアする課題が多いな、と感じているところですので、そういう条件整備のところについて、今後、定例会を含めて、色々私の方も研究をして、勉強もしていろいろ議論していきたいな、と思います。以上です

山田市長

はい。ありがとうございます。

	他にご発言ありますでしょうか
滝教育長	ごめんなさい。今の関係ですが。
山田市長	はい。
滝教育長	印刷費は全部が全部、保護者負担ではなくて、ある程度、限度を超えて「これ以上は」というものがあつた時に、保護者をお願いをするという状況です。だから十分な予算が取れていればその辺は避けていけると思います。そういう状況だけは少し…。
山田市長	はい。 他にご発言ありますでしょうか。
小倉委員	外れるかも知れませんが。
山田市長	はい、小倉委員。
小倉委員	<p>この前、はじめて楽田の図書館に行きました。楽田の図書館は子供向けのものを置くという棲み分けをされている図書館なのか、メインの犬山の図書館と特色を変えて置いてあるのか。小学校の図書館はまだ見て回っていませんが、子供向けの小学校だったら小学生向けのものが置いてあるとか、トータルでコーディネートをされているのかどうかをお聞きしたいな、と思いました。</p> <p>それからもう1つ、小学校一北小においてお手紙をもらいましたが、6月と11月に親の中で構成された読書ボランティアさんが読んでくださる日が6月は6回ぐらいありましたが、他の小学校でもそういうものがあるのか。城東では毎週読んでいるのではないか、という噂を聞きましたが、読書は本を好きにさせてやりたいという気持ちはあるけれど、受けて手がそうではない場合があつたり、どうして幼児期は本が好きなのに小学校に入ったら好きではなくなるのか。やはり1年生、2年生に関して言ったら、読んであげて言葉の世界や物語に上手く入れてもらって、そうしたら興味のあるものを選択できるのは中学年、高学年かな、と思うので、もっともっとボランティアの力を借りれないのかな、というふうに思いました。よそはがんばっているかもしれませんが、北小は年に2か月でした。</p>
滝教育長	今の件についていいですか。
小倉委員	はい。
滝教育長	<p>北部地区は市立の図書館があるものですから、一般の方もあそこに通えば、ただ南のほうからなかなかここに来るのは時間もかかるというので、楽田の図書館については市立の図書館の機能も果たすというコンセプトでできているのですが、なかなかやはり図書館に行くのと学校に行くのとでは。学校現場に足を運ぶというのは子どもさんがみえればいいですが、抵抗があるのかな、と。それで今回、楽田小学校が建て直しをします。この辺りは低学年用と高学年用と一般、「高学年と一般を含めたような形で図書館を」このコンセプトをきちっとして、それに基づいてこちらの方も多少、手直しをしよう。更にはすべての小中学校をもっともっと利用しやすいような…。ですから図書館の改築というのは、そういう意味があります。現に工夫はされていますが、本当に子どもたちが活用しやすい図書館の配列になっているかどうか。それを含めて図書館を見直していこうと。それが先ほど市長から出て来ている一ここにあります「古くからある日本文学を大切にしてほしい」という辺り、昔からの有名な本を読もうというような場になっていけば、この思いに一つずつ近づいていくことができるのかな、と思っています。</p> <p>それからボランティアについては、基本的にはどの学校にも入っていただいているはずで。私も西小学校にいた時には月に2回ぐらいは読み聞かせの場を作っていた。だから市内全体でそれをやっていたいただいていると思います。</p>

小倉委員	「朝、読書の時間がある」と子どもが言っていて、「何をしているの?」と言ったら、「本を見ている」と。見ているぐらいなら読んであげればいいのに、と思ってしまいました。
事務局 (神谷指導室長)	市長、いいですか。
山田市長	はい。
事務局 (神谷指導室長)	朝の学習的な時間で読書をずっとやっていた所がありますが、残念ながらそれが今、それは英語の帯の時間に使われたりして、蓋を開けてみると、残念ながらその時間は去年と今年では大分時間が減ってきました。
山田市長	それは何に使っているんですか。英語にしているのですか?
事務局 (神谷指導室長)	学校によって対応に…。
滝教育長	英語は横でやってないでしょう。英語は余分にとってはいけないと言われてますから。
事務局 (神谷指導室長)	帯でとっているところもあります。
滝教育長	英語を?
事務局 (神谷指導室長)	はい。
滝教育長	国語は帯でとっても英語は帯でとってはいけないということになっています。
事務局 (神谷指導室長)	色々な…。そうですね。
滝教育長	現状として一番授業時数が多い国語の時間の例えば漢字を習得する。これを例えば帯で10分、10分、10分という週に50分やりますよね、これで1時間になります。それで、1時間とって1コマ空いた部分をここで英語でやるというのはできる。英語は原則横ではとってないでしょう、岩田先生?
事務局 (岩田指導主事)	最初の頃は英語を帯で取ろうというようなことを良く聞いていたのですが、いざ実際近くなると、英語はやはり、今、教育長先生が言われたように「1時間の授業で学ぶものだ」という話になってきて、例えばさっきおっしゃられたように漢字の書き取りだとか、そういったところを帯でとっている学校は増えてきていると思います。
滝教育長	県の方も「英語は帯でとってはいけない」と指標があったでしょう?
事務局 (岩田指導主事)	「計画さえしっかり立てれば、帯でもいい」とおっしゃっています。
滝教育長	朝の読書一朝の始まりのところで10分間読書をやる時間があります。これは月、火、水、木、金で10分で5日間やると50分になります。ですからそれを50分あれば、これを1コマ1単位というふうに換算をするということです。
山田市長	なるほど。あえて僕は黙っていましたが、英語はいいです。放っていいです。放ってください。小学生に英語なんてもってのほか。国が間違っています。ですが国の教育指導要領の中にも入ってきているようなので、それは決められた範囲のことはやらなければいけないでしょうけれども、必要以上にやる必要はない。必要以上に。そこなんです。ですから、英語なんて後でどれだけでもついてきます。やりたいたいと思った時に学ばばいい。そんなことしなくても10年も経たないうちに同時通訳機が世の中に出回ります、無駄。本当に子どもの時にどういう学力を身に付けさせ

	<p>た方がいいのか、ということ間違えたら、えらいことになります。僕はそんな「英語だ。英語だ。」と言っているのに、そんなところまで英語のものを持ち込んでくるような実態がもしあるのであれば、絶対にそれは改めなければいけない。間違えています。これは僕の意見です。</p>
事務局 (神谷指導室長)	<p>各学校の方策は確認しますが、帯でとっているところはあるような気がいたします。もう一度確認しておきます。</p> <p>それから当然のことながら、法律に定められた部分しかやっていません。それぞれのところがやっていなくてもそういうことが起きているという…。</p>
山田市長	<p>あえて言うと、僕は極端なことしか言いませんから。このぐらいのことを言っておかないと、このぐらいのことはできないから、僕は極端に言っているだけです。本当に「放ってしまえ」とか真意で言っているわけではありませんが、そのぐらいの気持ちでやったほうがいいです。でないと、どんどんどんどんいろんなものが押し込まれてきます。本来やらなければいけない、本来子ども—この段階までにこれをきちっとやっておかなければいけないということが疎かになってしまうと本末転倒になります。だから言っているだけです。</p>
滝教育長	<p>今、市長がおっしゃることですけれども、これまでの授業時数、授業内容を削減しなくて、いきなり英語を「教科として余分にやれ」と言っているのです。どの学校もどこでその時間を取るかで四苦八苦をしているのが現状です。</p>
山田市長	<p>いいです。適当にやれば。だって小学校の授業なんて適当に、カリキュラムなんて下手したら守ってないところだってあるでしょう？</p>
滝教育長	<p>いえいえ。ある程度法的なところが…。</p>
山田市長	<p>「これはもういや、やめちゃえ！」みたいなところが。いやいや、やっている。そういうしわ寄せを国語に向けている可能性がある。しわ寄せは他の科目に持って行けばいいです。英語なら英語にしわ寄せを持って行けばいい。後からどれだけでもできるから、国語をやればいいです。どんどん国語をやれば。</p> <p>自由討議なので、自由ですから。</p>
堀委員	<p>はい。</p>
山田市長	<p>はい、堀委員。</p>
堀委員	<p>なんか変ですが、これだけ先生方が色々なことをやらなければいけないとなれば、やはり厚い、薄いということは、市長がおっしゃったように「捨てちゃえ」ということはできないにしても、重いところと薄いところは、やっていかないと先生方はやれないだろうな、という気はします。</p>
滝教育長	<p>今の…ごめんなさい、市長。</p>
山田市長	<p>はい、どうぞ。</p>
滝教育長	<p>犬山の教育現場は、本年度は読解力ということを最重点において教育活動を進めて行くということは既に校長会、教頭会でも、教育委員会の中でも話をさせていただきました。昨年度3つの部会に分けて色々なことをやってきましたけれども、今年は学力向上のメインのキーワードは「読解力」でありますので、どの学校もこの辺りのことは、そこに一番力を入れて教育活動を進められていくだろうと思います。</p>
山田市長	<p>それは何かやっていますか？ 全体での話ですか？</p>
滝教育長	<p>犬山の—というか、犬山です。</p>
山田市長	<p>「犬山が」ということですか？</p>
滝教育長	<p>「犬山が」です。</p>
山田市長	<p>はい。</p>

	<p>他によろしいですか。</p> <p>自由討議はいいですか。特になければ終わりますが。</p> <p>はい。では終わらせていただきます。</p> <p>5の「その他」ですが、事務局から何かありますか。あるなら後にしてもらえますか。少し僕が言いたいことがありますので。</p>
事務局	特にないです。
山田市長	<p>事務局から特にないですか？はい。</p> <p>その他…、討議することでもないと思ったのですが。部活を見直していこうという話で、僕は3月の時の総合教育会議でしたか、「保護者の理解を得るのに丁寧にやって欲しい」ということを申し上げたと思いますが、やはり、聞こえてくる声として、「部活がなくなってしまう」とか。犬山が先進的にこの点については進んでいくというところです。僕はよその動きを知りませんからあれですが、「こんなことでトップランナーになってもらわなくていい」と。「他にもっとやることがあるだろう」と、こういう意見だとか。僕は決して部活に関して、今の犬山市がやろうとしていることを否定するつもりはありませんが、ただ、やはり2学期制と同じ流れになっていく恐れがあるな、と非常に心配をしています。確かもう秋からなりますね？</p>
事務局 (神谷指導室長)	早朝練習ですか？ 早朝練習と言われるのはそうです。
山田市長	ですよね。これは犬山だけですか、この近隣だと。
事務局 (神谷指導室長)	近隣はそうです。
山田市長	<p>ですよね。そうすると犬山だけがまたそういうことになって、「だから犬山は弱くなったがや」とか、分かりやすい、勝てなくなったと。おそらくそういう話が、結果だけを見て、全部そこに繋がられて、全部これが原因だからこうなったんだと繋がられる恐れがあります。ですからよっぽど僕は「丁寧にやった方がいい」と言っています。保護者の人はどれぐらい今の犬山の方針について本当にどのぐらい理解しているのかな？ 「いや、特に文句は出ませんでした」とか、手を挙げて文句を言う人がいなくても腹の中で「なんだこれ？」と思っている人はいるのではないかな。アンケートとかはやっているのですか？</p>
事務局 (神谷指導室長)	やっていません。
山田市長	<p>やってないね？ その意向の把握をせずして一方的にこの秋からなしにしていくというのはいいのですかね？</p> <p>僕は3月に「『きちっと理解が深まった』ということが分かったら進めて欲しいけど、そうでないなら見直しの時期を1年先送ってもいい」と。最初にボタンを掛け違えると2学期制みたいに延々と「だから犬山はだめなんだ」ということを言われますよ。一旦ついたイメージはなかなかそれを振り払うのが大変です。みんな「よーいドン」でやるならいいですよ、他の市町も。ところがそうでないと「ほらみろ」と。「だから弱くなった」と。弱くなった原因が他にあっても、全部これに結び付けられてしまいます。だから、いつも言いますが「いいことをやっているからいいんだ」と、これではやはり立ってられない状況になりかねないので、今なら、今ならまだ1年先送ってもいいと思うので。本当に理解されていますか、保護者に。50パーセント以上。理解されているかどうか分からない状態で、進んでしまっているのですか？</p>

滝教育長	いいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>教育施策には保護者の意見を聞き協議をしながら進めるべきことと、保護者の意見が多い、少ないにかかわらず教育的な見地から「そうした方がいい」ということがあると思います。全て「保護者の意見を聞いてやる」と。賛成がいれば、反対もいる。反対の声は大きく聞こえます。少なくとも大きく聞こえます。賛成の声は小さくて聞きづらいです。だから、これについては、まず学校現場に神谷主幹が言って説明をして参りました。更に保護者についても神谷が行くはずでありましたが、進路説明会等と、学校説明会が同日に開催されたので、なかなか教育委員会から出向くのが難しかった。だからこれは学校現場にお願いをしました。校長がうまく説明した学校は保護者がある程度理解をしています。校長の説明が、まずかったのかなというふうに思わせるのかも知れませんが、そういった学校から多分、そういった声が聞こえてくると思います。ですから、これは学校任せにするのではなくて、教育委員会がその場を持って、2学期制も部活動についてもきちっと説明をし、意見をお伺いし意見交換をする場を今年は持つと、そんなつもりでおります。確かに市長のところには頭の痛い声が届くかも知れませんが、なるべくそういった意見は、出ないように教育委員会としても最大限の努力はしていきたいと思っております。</p> <p>部活動については、教員の多忙化と子どもたちの健康保持であります。これは急務です。ひょっとして期間を1年延ばしたことによって、その間に先生がもし過労で倒れたり、心を痛められるようなことがあった場合、誰が責任をとればいいのか。物事には無理をさせることと、我慢をさせることがあります。どちらを選ぶのか。無理をさせることを選ぶのか、我慢をさせることを選ぶのか。私は無理を強いるよりは我慢をさせるほうを優先させるべきかな、というふうに個人的には思います。以上です。</p>
山田市長	<p>理屈は僕もわかります。だから決して否定しません。ただ、2学期制と同じように、ちゃんと「素朴な疑問に向き合っているか」ということです。そこを「決まったのだから、決まったんです」と、全く内容が理解されていない中で部活だけが無くなるという部分が結果として出てしまうと、「何でなしにした」という話がどんどん燻って、不信につながるものが僕は…。学校不信、行政不信－保護者にとってみれば教育委員会も市も一緒なので、不信につながる恐れがある。だから、本当に「素朴な疑問と丁寧に向き合っているか」ということです。方針を変えるということは、相当の労力を使って、お一人お一人と向き合って、そのお一人お一人の素朴な疑問に対して丁寧に答えていく作業をしない限り、理解は絶対深まらない。それを「決まったからこうなんだ」というふうにするやり方というのは、少しいかがかな、と。そうやったかどうかは分からないので、丁寧にやってみるかも知れませんが。僕が言いたかったのは、今からでも遅くないので、どれぐらい今の市の方針というのは理解されているのか、或いは理解されていないのか。何か不満はないのか、意見はないのか。そういうことはきちっと保護者と向き合った方がいいような気がします。</p>
奥村委員	いいですか
山田市長	はい。
奥村委員	<p>保護者の立場として、今、うちの娘が中学校の1年生で部活の選定をするに当たって、部活動の説明会を各部活ごとで保護者を集めて話されております。それで私も伺って、話を聞きました。そこにいた1年生の保護者の場合は、私の聞く限りではしっかりと理解は得られているというふうに認識しています。これはやはり自分</p>

	<p>の子が初めて部活というものに入っていくので、その辺りに対して「こういうふうに進めていきます」、「休みはどうなるんですか？」というような、やはり疑問などを各部活単位なので割と少人数で、その中にもやはり先ほど言われていた2年生、3年生の保護者さんの中にはみえましたが、多分、そういったものにみえていない2年生、3年生の保護者さんがやはり書面だけで見て、理解がきちりと得られていないので、そういう声が上がっているのかな、というふうには感じます。実際、私の方も他の学校でやはり一度校長から違うように一間違っただけで聞かされたものがずっとそのまま残っていて、それ以来学校に行っていないので、そのままというような認識という部分もあるかと思えます。一年生に関してはそういう部活動のちゃんとした説明の場があったので、僕はしっかりと一たん他校も同じだと思えますが、しっかりとそういう所の説明はできているかと思うので、2、3年生のフォローをしっかりと今一度何かしらもう少し細かな部分でできればいいのかな、というふうには思いました。</p>
滝教育長	いいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	<p>「部活動がなくなる」というというのが、どこからのどういう情報なのか、これが理解ができません。僕は議会でも答弁をしましたが、朝の部活と午後の部活、それを例えば朝に集中的にやれば午後の部活を無くすことができる。逆に朝やめてしまって午後に集中的にやれば効率的に活動ができるという話はしてきましたが、とにかく「部活を削る」とか「朝の部活を無くしてしまう」とか単独にそれだけでなく、教育活動全体の中で部活動をどうしていくかという辺りも定例教でも校長会の場でもそうですが、何度となく議論をしてきました。その過程で学校現場には「保護者がお集まりになった機会できちっと話を伝えてください」というふうにお伝えしてありますが、やはり学校によって校長の温度差があるのか、上手く伝わっているところは「ああそうか」と。上手く伝わっていないところは「え？部活がなくなる？ どういうことだ。」となるわけです。この辺りは教育委員会もかんで、きちっと保護者の素朴な疑問や不安にお答えできるような場をこれからやはり作っていかねばいけないと思っています。ただ2学期制と部活動については、なるべく早めのところで学校単位にやった方がいいですね。北・南というふうにも思いましたが。</p>
山田市長	時間が短くなる分、冬場はどうなりますか。
滝教育長	<p>冬場は4時半にもう暗くなるのであれば、朝の一朝も7時半という暗いですね。でも朝の時間帯に、例えば8時から9時まで部活動をやろうと。9時から授業をスタートすれば4時半の時点で下校させれば、というのも1つの方法です。そういう方法もある。それは全体として「こうしましょう」ではなくて、それぞれの学校で実情が違いますので、それぞれの学校で考えて欲しいと投げているわけです。だから決して部活動をやめてしまう、無くなってしまいうということではなくて、どうするといかに効率よく活動ができるか、ということそれぞれの学校で一度考えて欲しいということです。</p>
山田市長	とにかく理解が得られているかどうかというのを、「理解が得られていると思います」では対外的には残念ながら説得力がないです。だから、何をもち「理解が得られているか」ということです。それは現場で何か把握していますか？
事務局 (神谷指導室長)	伝聞だけです。
山田市長	伝聞だけですね。そこで寄せられる疑問や不満だとか、もちろん全ての声に完

	壁に答えるのは無理だと思います。「今までどおりにやれ」という意見もあるかも知れませんが、「見直す」という方針を持っている以上、できないこともあるかも知れません。ですが、やはりそこで一つずつ丁寧に向き合ったり、或いは市の方針に対して今、どのぐらい実際にご理解をいただいているのか、ということは何の把握もなしに一方的に進めてしまってもいいのかな、と思いますが。新しく入ってくる人は「こういうものです」という前提でやりはじめるので、そのシステムに慣れてしまえば「こういうものだ」と思うと思います。ただ、今後、変な話「犬山ではスポーツをやるとアカンぞ」と。「弱くなるぞ」と。「犬山はスポーツ部活に力を入れてないから犬山ではスポーツをやる子はダメだぞ」というイメージになるのを僕は恐れています。
滝教育長	そういったことのないように、とにかく今の強さは維持できるように、効率よく練習をしろ、というふうには学校には働きかけをします。ただ、この9月、10月以降、朝練が無くなって、結果どうだったかと言われた時に「それ見ろ」と言われることのないようにはしたいな、と思っています。「犬山は朝の部活はなくなったけども、強さは維持してるな」というふうに言われるような取り組み方を是非させたいな、とは思っています。
山田市長	そこのところが難しいところです。全部結びつけられてしまうから。「『部活がなくなる』ってなんでそんな話になるんだ」と。世の中はそういう話ばかりです。分かりやすいから。「なくなるげな」と。
滝教育長	そういう話は教育委員会や学校現場に行くのではなくて、市長のところに最初に行くというのが…。
山田市長	いや、いや。そんな話はよく聞きますよ。ものすごくよく聞きますよ。
紀藤委員	よろしいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	一宮市はずっと前から部活動はないのですが、レベルは落ちていますので。西尾張とか県大会。
事務局 (神谷指導室長)	強いところはないと？
紀藤委員	強い、部によっては色々あるかもしれないけれど。
山田市長	一宮が？
紀藤委員	一宮はずっとないです。
事務局 (神谷指導室長)	小牧もです。
紀藤委員	小牧もないですね。
山田市長	小牧もない。
紀藤委員	はい。
滝教育長	朝の部活はやっていないところの方が多いです。
紀藤委員	この丹葉地区では、ほとんどみんなやっています。でも、他の地区はないのがずっと10年以上だと思います。15年ぐらい。やはり事故があつて亡くなったところもあります。やはり教育委員会から「朝部活はやめ！」と。そういう一声で。市長さんのおっしゃることも良く分かるので、多分、今までの話し合いの中でも犬山市はできるだけ工夫をして、そうならないようにということで、していると思うので、安心できるわけではないけれども、一つ一つ反対の声を聴いていると多分1年延ばしても、2年延ばしても今の状況は変わっていかないな、と。やはり変える時にチ

	<p>チャンスを逸すると変えられないし、先ほどの2学期制の問題も、どうしても声として上がってくるのは、議員さんを見ていてもあるのは、「受験に不利だ」とその一言がずっとありますが、以前、城東中学校のPTAの役員の方が「そんなのは日頃の勉強じゃないんですか」と一言言われたのですが、その声は大きく広まらない。そこでは会長さんがおられる所ではみんな「そうだ、そうだ」という雰囲気はありましたが、「部活動が終わって、夏休みに勉強したから、ドンと評価が入って、高校もバッチリ行ける」という意味で捉えられると、2学期制になったからそれができない。という捉え方になるのかな、と。</p>
山田市長	<p>くどいようですが、決して今の犬山の方針を否定しようとか、そんなことを言っているのではないです。「一人でも反対があったらやるな」と言っているわけではなくて、やはり素朴な疑問に丁寧に向き合っていないと、僕が最初にこの問題で聞いたのも、前に伝えたと思いますが、「問答無用だった」と。「何を言っても問答無用だった」と。こういう意見を僕が最初に耳にしたのはそれです。南中ですけれども。だから、「もうこの人たちは『自分の決めたことありき』で、一切俺たちの声には耳を傾けないんだ」と、そういうイメージです。受け手だから。受ける側のイメージだから。「そんなつもりはありません」と言っても、受ける側のイメージがそうなった声はこちらに伝わってくる。やはり一つ一つの声に向き合うというのはめんどくさい話です。労力がかかる。だからその面倒を惜しんで、「もうこう決まっています」と、楽ですから。ですが、せめて最初に方針を変える時ぐらいは、やはり100パーセント理解を得るぐらいのつもりで、丁寧にやって、それでもって60パーセントとか、50パーセントとかという数字になるのかも知れませんが、100人が100人、全員が理解を得るとは思えないし。また、その説明の時にも「どうも先生が楽しみたいから、部活がなくなるげな」と、こういうふうなのです。多忙化解消というキーワードは、もちろんそうかも知れませんが、あまりそれを紋所のように「どうだ、これが目に入らぬか」のような話でするのは、少し僕は違うと思います。やはり子どもたちが練習する環境として、「朝も夕方も」というのは、本当に子どもが効率的に練習するのにそういうスタイルがいいのか、とか。もちろん隠すこともないので、先生の多忙化も当然、要因の1つではあると思いますが、もう少し説明の仕方を工夫するとか、さっきの「一宮や小牧もありませんよ」とか。だから、こういうことを最初にボタンを掛け違えた状態でずっといってしまうと、「犬山は部活をやめたで弱くなった」と、そういう話にすぐなります。分かりやすいから。ですから、そうならないように、上手く、ソフトランディングした方がいいのではないか。だから、僕は「1年先送りにする」というのは、あくまでも選択肢として「そういうこともある」と言っただけであって、「こんなもの先に送ってしまえ」と言っているのとは違います。そうではなくて、ゴールを時間まで区切ってしまって、「決まってるからやるんです」ではなくて、まず理解を得る努力を丁寧に丁寧にやっていった結果、「いつからやりましょう」というものが本来でないといけません。ですが、最初にこういうことを時期まで決めてやっているの、あえて「別に来年にしてもいいじゃないか」という言い方をしましたが、そのぐらい合意形成には努力をした方が僕はいいと思います。このままぶっちょっちゃうのではなくて。「問答無用で一切聞かない」と、「やめるものはやめる」と、「問答無用で切って捨てる」と、そういう学校運営はダメだと思います。</p>
滝教育長	一ついいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	このことについては、去年の4月から教育委員会で、校長会でやりとりをして、

	<p>私どもの腹としては、もうこの4月からやりたかった。ところが学校現場は先生方或いは保護者に理解を得たいからということで、「1年伸ばして欲しい」という要望がありました。それでやりとりをしながら、保護者が集まった機会には必ず話をしたいということで、もうだいぶ「教員の多忙化解消について」社会的な議論が高まってきました、去年の4月から実際に決める10月、11月には社会的な議論が高まってきました。ですからこれは煮詰まってきたので、「やるならその4月からかな」と思いましたが、現場の声を聞いて、これを折衷案で半年延ばした。今、市長がおっしゃっている意味合いは、僕はやはり「学校の説明の仕方が下手くそだったな」と。教育委員会は、少なくとも話をする時には、そんな「何がなんでもこうです」なんてことは話をしてきたつもりもありませんし、丁寧に説明をしてきたし、学校現場にも丁寧に向かっていたつもりですが、これもはっきり言って、校長の温度差です。出て来ているのは校長の伝え方の能力の差です。だから例えばある学校は、もう校長会で色々な情報交換をしますと。すぐにPTAの会で話をしたりして、職員も問題なくすぐに行けるような体制になってくる。ところがある学校一校長の中には「朝の部活を無くすことには反対だ」という人間も居たものですから、そこが一番揉めて、「自分はやりたいのだけれど、教育委員会がやめると決めた」というような話し方をされたのではないかな。だから保護者にこれがうまく伝わってないのではないかな、と。だからやはり、これからは常に教育委員会が入って丁寧に説明をし、なるべく市長に嫌な声が届かないようにしたいな、と。これをやらなければいけないな、と、思っていますので、大変頭の痛い、耳の痛い状況で申し訳ないな、と…。</p>
山田市長	<p>僕に色々な声が入ってくるのはいいのですが、大事なものは、どのぐらい納得していただいているか、ということです。「我々が説明しました」と、そういうことではありません。相手がどれだけ納得したか、ということで、くどいようですが、相手目線に立たなければいけないということです。それをどう推し量るのか、ということです。「納得していただいたと思います。特に反対の意見もありませんでした。」ということです、納得したかどうかは分かりません。だから納得したかどうかということを、ちゃんと『見える化』して欲しいです。納得しているかどうか。</p>
滝教育長	<p>今度説明会をやった後にはアンケートをとって、どれだけ理解が深まったか、一つ量る手段はとってみたいな、と思いますけれども。</p>
山田市長	<p>アンケートの取り方もあると思います。「本当はやめて欲しくないけど、やむを得ないと思っている」というのもOKです。考え方によってみれば。ですが、そういうことをきちっと整理をせずにぶちぎってしまうというのは、僕は少し危険だと思います。また2学期制と同じことを招きかねない。「ほれみろ、弱くなったがや」、「だめになったがや」、それが因果関係がなくてもそうなってしまいます。だからちゃんとやった方がいいと僕は思います。これはもうエンドレスになってしまうので、それは考えてください。</p> <p>はい、田中委員。</p>
田中委員	<p>1点、これは部活だけの問題なのかな、と実は思っています、内容よりプロセスが大事だということはずっと思っているところで、教育、学校というところは、学校現場というのは、それが弱いがために「閉鎖的だ」とか色々な批判、学校不信というものがおそらくきているのだらうと思います。そこまで市長に対して不満が出てきたのを聞いていて、そこに至るまでどうしてそこまで信頼感がないのか、と。その前段階で既に学校に対する不信感がものすごくあるが故に、そういうような意見が多分出て来て、「部活」というのは1つの不満が出る、決まったところに</p>

	<p>多分出てきたのではないかと僕はすごく感じていました。実際、どうかというところは別にして、少なくともそういう意見が出るということは、これまでの学校、部活に限らず全ての教育課程に対して、本当に合意が得られていない、理解が得られていないというところを本当は見ていかなければいけないのであろうな、と。そこに至るまでにボタンの掛け違いがあると誤解が生まれるし、部活に対しても偏見が出てくるだろうな、と。ですから、例えば、これはほとんどどこもやっていないところですけども、私が以前研究したある学校は、教育課程の年間スケジュールを立てて、前年度末に予算、カリキュラム、部活のあり方もそうですし、例えば犬山であれば二学期制という部分もそうですけれども、全体的なところを保護者全員を集めて、保護者会と言うか教育課程の総会みたいなものを開いて、来年度、この学校を、この学期はこういうふうにします。部活はこういうふうにします。全て予算を含めて提示して、それで合意を得て、来年度をスタートするというシステムがある地域がありますが、例えばそこまでできなくても、少なくとも全体で保護者の方、全員を集める場でなくても、保護者会や保護者面談、PTA総会であったり、その学校は普段から町内会の会議に先生が出席したり、地域活動に先生が見に行ったりというところで普段から保護者との色々なコミュニケーションをする場をいっぱい持って、そこで普段から色々なやりとりをしていくということを積み重ねていって、おそらく教育課程をその場の1回きりの説明では合意が得られないので、普段からそういうやりとりをすることで、信頼感を得ていくしか、地道にやっていくしかないと思います。ですから、今回、「部活をどうするか」ということ以外のところで日常的に保護者、地域の方も含めてですが、どういうふうにしたら学校の現状を本当に偏見なく理解してもらえるか、ですとか学校が取り組んで教育的な或いは専門的な観点からやろうとしていることに対して納得が得られるのか、というところをもう少し包括的に、総合的に見直さなければいけないところもあるのかも知れないな、と思ったところです。</p>
山田市長	<p>基本的には僕が聞いている範囲も限られた範囲かも知れませんが、学校に対する不信とか不満というのは、少ないと僕は感じています。世論として。ただし、やはり個別の部分についての分かりやすい話が出てきた時に一歩間違えると、そういうところが不信や不満を、今はそこまで大きくなってなくても、それが大きくなっていく懸念があるので僕は言うだけであって、背景にそういうことがあって、たまたま部活のことがあって噴出したということとは少し違う。出て来ているのはもっと単純だと思います。「なんで、部活を無くすのか?」とか、「あかんがや」とか、そういうレベルです。</p>
田中委員	<p>2学期制の時もおそらくそういう個別のところ、やはり色々あると。</p>
山田市長	<p>個別です。だから学校そのものに対して不信とか不満があって、「犬山の学校なんてとんでもないわ」という意見はほとんど聞いたことがないので、皆さんの学校に対しての信頼というのは、僕はかなりそれなりの割合であると感じていますけれども。ですから、だからこそこういう個別に事案について、丁寧に向き合っていく癖にしておいた方がいいと思います。昔は「学校が決めたのだから、それに従うしかないだろう」という世論の支えがありましたが、今はそういうものが弱くなっている、そこは丁寧にやっていった方がいいのではないですかと、それだけの話です。</p>
滝教育長	<p>今年はそのつもりでやります。</p>
山田市長	<p>はい、奥村委員。</p>
奥村委員	<p>各学校で、学校アンケートというのをとっていると思いますが、確か年2回あり</p>

	ましたか。ですから、それで一度、内容も踏まえてとって、結果を教育委員会に出していただくというような形をとれば、どれだけ理解度があるか、というのも数字で大分出てくるのではないかな、というふうに思いました。
山田市長	はい。是非、一度現場でもまた努力してみてください。 その他で他によろしいですか。 では、大変長時間にわたりまして、お疲れ様でした。議題も全て終わりましたので、これをもって総合教育会議を閉じさせていただきたいと思います。 お疲れ様でした。
＜ 閉 会 ＞	